

## 令和5年度第2回秩父市総合教育会議 議事録

期 日	令和5年12月19日（火曜日）
時間・場所	15時～16時40分・秩父市役所歴史文化伝承館5階 第1会議室
出席者	<p>北堀市長、前野教育長、山中教育委員、大島教育委員、浅海教育委員、萩原教育委員          総合政策部長、総合政策部専門員兼総合政策課長、総合政策課参与、総合政策課主査          教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長、教育研究所長、教育総務課長          傍聴者 なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶          ○教育長挨拶</p> <p>○議事  <b>(1) 秩父の魅力を伝える学校教育のあり方</b>  <u>資料1について教育委員会事務局 飛川教育研究所長より説明</u></p> <p>(山中委員)          ・私の体験を事例に述べさせていただく。高校卒業後都会に出て、若い頃は都会に憧れる気持ちも多かったが、どこで子育てをするかを考えた時、秩父に帰ってきたいという気持ちを抱いた。          ・秩父に戻って子育てをしたいと思った理由は、小中学校の頃に秩父について学習したり、近くの山等で遊んだ経験が印象に残っていたからかもしれない。          ・また、地元のお祭り（神楽）は、地元の方が楽しみながら一生懸命参加されていて、そのような大人達の姿を見ていたことも、秩父に戻りたいと思うようになった要因ではないかと思う。          ・神楽師の方の話では、神楽を大人達が楽しみ、その魅力を子ども達に伝えることで一緒に取り組んでいるとのことである。          ・伝統文化に触れた子ども達がそれを継承するか、また秩父に戻ってくるかはわからないが、大人達が地元の祭り等を楽しんでいることを子ども達に見せ、子ども達が地域の魅力に触れる体験をすることが大切だと思う。          ・事務局の資料より、各学校にて秩父の魅力を知らずため授業が多く行われていることがよくわかった。さらにもう一歩進めるためには、子ども達に対して学校・地域・家庭が共に伝えていくことが大切だと思う。</p> <p>(大島委員)          ・私が小学校の時は武甲山の絵を描く宿題や、蚕の飼育はあったが、現在ほど郷土の魅力に関する授業はなかったと記憶している。          ・このような郷土の魅力に関する授業が増えている背景には、子ども達に地元に残ってほしい、という思いがある。</p>

- ・様々な伝統文化があり、中には継承していくのが難しいものもあるが、自分達の親や先祖達がどのような暮らしをして秩父地域を作ってきたかを知っておくことは、地域を愛する気持ちに繋がるため素晴らしいことだと思う。
- ・例えば、吉田地区では龍勢を地元の方の指導を受けて作っていたり、花の木小学校では、お祭り集会を復活させた。これは今40歳くらいの人たちが子どもの頃に作った山車など使ったもので、花小地域はお祭りが盛んな地区にあり、子ども達が今後のお祭りを支えていくためにも良い取組だと思う。
- ・また、植樹祭が予定されている現在にあっては、郷土の魅力として伝統文化だけでなく自然の保全に関する内容も組み入れていくと良い。特に河川の汚染が進んでおり、絶滅しそうな生物もいる。このような内容に対する教育を入れていくと、子ども達が地域の課題に気づききっかけになるのではないかと。先生方の負担も大きくなってしまいかもしれないが、期待している。

(浅海委員)

- ・各校の取組内容を見ると、小学校では所在地域の歴史、産業に基づくものが多く、中学校ではそこから発展して、ジオパーク等秩父全域を対象とするものが多い。
- ・吉田小学校の「世界に発信！吉田の自慢」という取組が特徴的である。グローバルな時代である現代、学習指導要領に「我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と繁栄に寄与する態度を養う」とあるように、国際社会との関わりの中で郷土の伝統文化を愛するという観点が重要である。
- ・グローバルとローカルをかけ合わせた「グローカル」という言葉が示すように、国際的な視点を持ちながら地域に根付いた活動をしたり、逆に地域の素晴らしい伝統文化や産業を国際的に発信していく視点を持つことが重要である。
- ・秩父には自然だけでなく、伝統的な構造物や、メープルシロップ、ウイスキー等、世界で認められる食文化もある。これらを子ども達にしっかり認識させて、発信してもらおう。そのような中では外国への発信のために外国語教育も重要である。
- ・秩父高校と皆野高校が統合して新設される高校では、国際理解教育が掲げられているため、このような小中学校における取組と連動していただくとありがたい。
- ・地域おこし協力隊として外部から多くの方が秩父に来て、地元にはない発想を持って活動していただいている。もし協力隊の中に外国籍の方がいらっしゃれば、また違った角度から秩父の魅力が世界に発信されていくのではないかとと思う。

(萩原委員)

- ・秩父市教育大綱の基本理念や、学校教育推進プラン、また各学校の取組状況を見ても、地域の特色や自慢になることを調べて愛していくと

いう取組は大変よくできていると思う。

- ・ただ一点申し上げたいのは、現代はグローバルな時代で、高度情報化社会でもあり、秩父ばかりにこだわってはいけないということである。秩父を愛する人間を育成していくことが、広く国家社会に有為な人材の育成にも繋がっていくという視点を忘れないでほしい。
- ・市役所やまつり会館、市民会館等は地域の魅力が集約されていることもあり、このような施設等を見学するなりして、地域の魅力に触れる機会を計画していただけると良いと思う。
- ・また、自然保全、自然環境保護等、地域の自然を愛する活動と同時に、自然が含む危険な部分についても子ども達に周知していくことが重要である。
- ・秩父の良い面だけでなく課題についても正しく知り、そこから未来を考えていくと真の郷土愛に繋がるのではないか。正しく郷土愛を認識できれば一度秩父から出たとしても、いずれ戻ってきて秩父地域のために頑張ってくれる人材になってくれると思う。
- ・年齢や発達段階に応じて郷土の課題もしっかり教えていくこと、正しく地域を知るということが本当の意味での教材になるという視点も踏まえ、次年度以降も推進していったほしい。

(教育長)

- ・秩父の魅力に関する学習内容として、学校の教員だけで教えられるもの、地域の指導者の方を招聘して本物を見せていただくもの、PTAや保護者との連携を図りながら深めていくものがある。
- ・龍勢や歌舞伎、申人形芝居、神楽等々、伝統芸能については地域の方の協力を得ながら多くの学校で体験・発表する場を作っていた。また教育委員会としても、小中学生の活動を発表する場として秩父市民俗芸能大会を市民会館で開催する予定である。
- ・授業においては、郷土について学んで、プレゼンテーション形式や新聞形式などで発表する場まで一連の流れができている。
- ・学校担当者にとって、地域の方と連携を図っていくというのは大変な場合もあるが、それが既にシステム化され連携ができており、大変素晴らしい取組になっている。取組内容も、芸能文化に限らず、伝統工芸や伝統的な食品等の取組もあり、様々な分野でそれぞれの団体や施設との連携を図って推進していただいている。
- ・秩父の魅力の取組の発表については、中学生は、時間が許すのであれば英語版での発表もやっていただくとさらに良いのではないかと思う。
- ・新たな取組を紹介する。1つ目は、ドングリから苗木を育てたり、県で用意した苗木を学校で育てるという、全国植樹祭に係る緑の少年団に関係した取組である。
- ・2つ目として、西小と花の木小学校では、フジバカマを植えて、アサギマダラを呼ぶ活動をしている。こちらも緑の少年団に関係した取組である。
- ・3つ目として、森の大切さや豊かな自然を守ることを学習するため、

荒川西小学校でメープルシロップに関する絵本を使って授業を行っていただくことを検討している。

・また、先月、秩父第一中学校では、商工会議所青年部の方に協力いただき、2年生に対し15人の企業従事者の方に仕事内容や、なぜこの仕事についたか、という話をしていただいた。大変好評で、全校で行いたいという話をもらった。地域には世界に羽ばたく企業もあるので、今後はそのような所から子ども達が学んで、子ども達の言葉で情報発信ができれば良いと考えている。

(市長)

・子ども達に秩父の歴史、伝統、文化を学んでもらえる環境づくりのため、小学校・中学校・高校が繋がりを持って取り組んでいきたい。また、地元にある技術革新を知る機会を持たせたい。

・住んでいる地域の伝統文化等について子ども達が魅力発信ができることが必要である。また今後はグローバル化に伴い、英語が必須になってくる。我々が自然に日本語を覚えたように、苦勞なく英語を覚えられよう早期からの英語教育に取り組みたいと思っており、市立保育所でも、英語の音楽や本に親しむ時間を作ったりしている。

・伝統文化に関しては、秩父の子ども全員が屋台囃子の楽器（太鼓、笛、鐘など）が演奏できるようになれば良いと思う。

・若者が一度は田舎を出て東京に行ってみたいと思うのは当然である。秩父に帰って来たくなくなるような魅力のある街づくりをしていくことが大事である。

・また、移住に関してもフレンドリーに誰でも受け入れられるような環境を作っていくことがまちづくりの大きなテーマである。

・農業等、実体験を通して学ぶことも多い。市では有機農業の取組を始めたが、その中で土に親しんでもらったり、地域の高齢者の知識や遊休農地を活用し、学校教育の一環として農業に親しむ時間があっても良いと思う。

・今の時代は、いろいろな情報が入ってきてしまう。ネットに感化されやすい。またいじめの問題もあり、自分を守る武道などの術を習得しておくことも必要なのではないか。

・家庭教育を通じ、メンタルの強い人間を育てることも大切である。

・秩父の歴史伝統を子ども達が自分でかみ砕き、大きく成長するために秩父という地域が役立っていけるよう家庭と社会、学校が協力して推進していきたい。

・1年だけで終わってしまう取組でなく、伝統として継続してやっていく必要がある。

## (2) 不登校対策について

資料2について教育委員会事務局 飛川教育研究所長より説明

(萩原委員)

- ・ 不登校の児童・生徒数が平成13年に全国で13万9千人になったことを受け、国は翌年に不登校問題に関する調査研究協議会を組織したが、令和5年現在、不登校児童・生徒数は全国で30万人近くとなっており、倍以上になっている。また、予備軍含めるとさらに多く、社会的な問題になってきている。
- ・ 戦後は個人重視、多様性の許容、弱者を置き去りにしないという風潮が高まる中、義務教育の子どもに関しては取り残される児童・生徒がいないよう努力してきたものの、なかなか結果が出ない中、世論やマスコミからは、日本の教育は崩壊している、という厳しい論調も見受けられた。
- ・ 現代は学びの選択肢も増え、「学校しかない時代」から「学校もある時代」へ変化したと言われており、学校に行く義務はないというようなことを主張するような一部の教育評論家やそれを支持する一部の世論・マスコミの影響で、指導しにくくなってきているとも聞く。
- ・ 学校教育は何事も、保護者、地域と学校が連携して初めて意味をなす、と言われていているが、現代では親も仕事に追われている。ワークライフバランスを重視し親を家庭に戻す動きもでてきており、行政を通じて市民や経営者に対して声をかけたり、不登校を生まないための地域を挙げたキャンペーンが必要である。
- ・ 秩父市の現状を見ると、不登校の割合は約1.5%となっており、他地域に比べると少ないと言える。これは、秩父地域の学校が小規模校化し、結果的にきめの細かい指導ができていたり、人口流出・流入が少ない安定的な地域社会であることが要因になっているのではないかと。
- ・ 市の不登校対策には、重複すると思われる内容もあるため、一つ一つの対策が機能しているのかを検証しながら整理していき、成果があるのであれば実践例を発表していくと他の参考になると思う。
- ・ 基本的な生活習慣が身につけていないことから不登校に繋がる児童・生徒もいるのではないかと。
- ・ 不登校対策を継続的に見て、整理できるものは整理し、子ども達の進路の選択肢を狭めてしまうことがないよう、学習保障という観点から学習支援に力を入れていく必要がある。

(浅海委員)

- ・ 不登校の問題については議論が尽くされており、八方ふさがりのような状況にもある。
- ・ 学校を卒業した後、子ども達が労働生産者、納税者になる。15-64歳の約2%が引きこもりという統計もある。不登校が継続して引きこもりになってしまうことが心配である。
- ・ 小・中・高が粘り強く連携して社会で自立できるよう、長い目で対策

を練っていく必要があると思っている。

- ・ 秩父市の不登校対策の中で「早寝早起き朝ごはん」の活動があるが、これがなぜ必要なのか、またその効果について、子ども達に粘り強く周知していく必要がある。

(大島委員)

- ・ 他地域の例だが、音が機敏に聞こえてしまうため登校が困難な児童に対し、タブレットでの授業配信について親から学校に説得して行った例を知っているが、その場合も出席扱いにならないとのことであった。
- ・ 検索で「不登校」とすると、まず企業が運営するフリースクールが引っかけられる。また、趣向を凝らした授業を行うフリースクールもある。不登校に関する決定的な解決策がない今、企業も受け皿を用意している。
- ・ 学校は社会の縮図であり、協調性を育む場であるが、不登校によりその機会が奪われてしまうのは問題である。
- ・ 熱心な先生が不登校の子どもに対しよくフォローし、部分的な登校を認めていたが、進級したことで先生が代わり、それまでの対応が認められなくなり、また不登校に戻ってしまったという例も聞く。
- ・ 中には、自分が輝ける場所を見つけたり活躍する体験をすることで不登校を克服し前へ進める子どももいる。
- ・ 不登校対策に取り組んでいくには多くの目で生徒をフォローしたり、外部の専門家を入れたりするなど莫大な人件費がかかるが、対策していかないと解決しない。

(山中委員)

- ・ 不登校の原因として「無気力」というものがあるが、コロナ禍の影響やコロナ後の生活の変化が影響しているのかもしれない。
- ・ 秩父市の不登校対策として様々な対策やっただいてはいるが、成長の程度に応じて見守り、寄り添っていく必要がある。働き方改革も叫ばれる中、先生方への負担に関しても考慮して進めていただきたい。
- ・ 一人の担任が不登校の生徒の対応をするのはなかなか難しいため、教育相談員、さわやか相談員、臨床心理士、スクールカウンセラーの方が対応されているが、これらの方の負担を減らしていくためには専門職の皆さんの配置も増員する必要があると感じる。また、これらの専門知識を持つ方は子ども達からだけでなく、困っている先生からの相談も受けられるのではないかと期待する部分もある。
- ・ なぜ不登校になっていくのかを知る上では、臨床心理士による検査が有効と思うが、保護者に対する検査の推奨にあたっては、保護者の不安を増大させないよう伝え方について慎重に行う必要がある。
- ・ ICTを活用した支援については、各学校で対応がまちまちである。対応してもらえない、という意見も聞いたことがある。
- ・ 最近では不登校の子どもを持つ保護者の会の活動が広がっており、会合の会場費用がかかるという話も聞いたことがある。不登校対策とし

て秩父市はよくやっていると思うが、このような不登校の子ども達を抱えている保護者の負担軽減につながる支援もお願いしたい。

(教育長)

- ・令和4年度において、不登校の割合は全国では3.17%、秩父市は2.46%である。また、市内小学校13校のうち、6校では不登校児童がいない。また中学校のうち、1校では不登校生徒がいない。国の平均からしたら低いがこれ以上増やさないために秩父市でも様々な取り組みをしている。
- ・長期間学校を休んでしまうと自己肯定感が下がって意欲をなくしてしまい、復帰するのが困難になってしまう。
- ・各学校でも取り組んでいるが不登校の理由は人それぞれ異なるためなかなか解決に至らず、学校、教育委員会も悩んでいるところである。
- ・不登校を減らしていく対策として、教室が安心して過ごせる場所であることを確保すること、教員がちょっとした変化に気づけるよう資質向上を図ること、保護者との信頼関係を構築することが重要である。これらはこれまでも行ってきたが引き続き取り組んでいきたい。
- ・タブレット端末を活用しながら学習支援を行い、高校進学希望があれば多様な選択肢を提示するなど、不登校の子ども達を支援していきたい。
- ・不登校対策に特効薬はない。これからも地道な取り組みをしていくしかない。初期対応に全力をあげ、連続で休んだら家庭訪問する等してリカバリーしていく。
- ・今年度から始めた、教育相談員による学校での相談は効果を挙げているが、教育相談員が学校に行くためにひまわり教室が手薄になるため、それに対応するための予算が必要になる。

(市長)

- ・不登校の問題については永遠のテーマである。一番の問題は人間関係であり、連続して休むと学校に行きづらくなってしまう。
- ・近年社会全体が過保護になりすぎている気がする。幼児教育のときから、我慢を覚えさせ、苦労させ、精神的に強くするという教育も必要だと思う。また、共働き家庭が多いために子どもとスキンシップがとれず、子どもが愛情に飢えていることも一因かもしれない。
- ・打たれ強い子どもたちが育っていかなければ、社会に出たときに、我慢ができずに問題を起こしてしまうかもしれない。「かわいい子には旅をさせよ」という先人の言葉は重みがある。
- ・先生方も、ものの分別をわきまえて我慢ができる子どもを育てなければならぬ中、マスコミ、PTA等に何か言われると萎縮してしまい、子どもに強く注意ができない。
- ・マスコミも一つのところだけ切り取って報道し、社会全体が反応してしまうこともある。人として寛容な気持ちも養っていかなければいけない。
- ・不登校の問題は社会全体で考え、一人一人が意識改革をして、寛容な

気持ちを持つことが必要である。

- ・学校のいじめ等の問題に関しては警察OBに来てもらっており、先生や職員だけでは難しい問題があったときには立ち会うようにしている。
- ・不登校の問題については継続して総合教育会議で議論していきたい。

(萩原委員)

- ・不登校生に対しての対策ばかりに力が入って、不登校ではない生徒が大事にされていないと感じてしまっはいけない。不登校ではない生徒にも変わらぬ熱い目線で指導する必要がある。
- ・貧困は人を苦しめるが、豊穰は人を惑わせるという言葉がある。かつて貧しかった時代はとにかく大勢の中で競い合いながら育っていたため打たれ強い。一方で今の子ども達は優しいが、脆い面もあるということを受け止めながら指導していくしかない。
- ・若い先生にも支援が必要である。しっかり支援して先生を育てられる学校の組織であってほしいと思う。

○閉会

以上